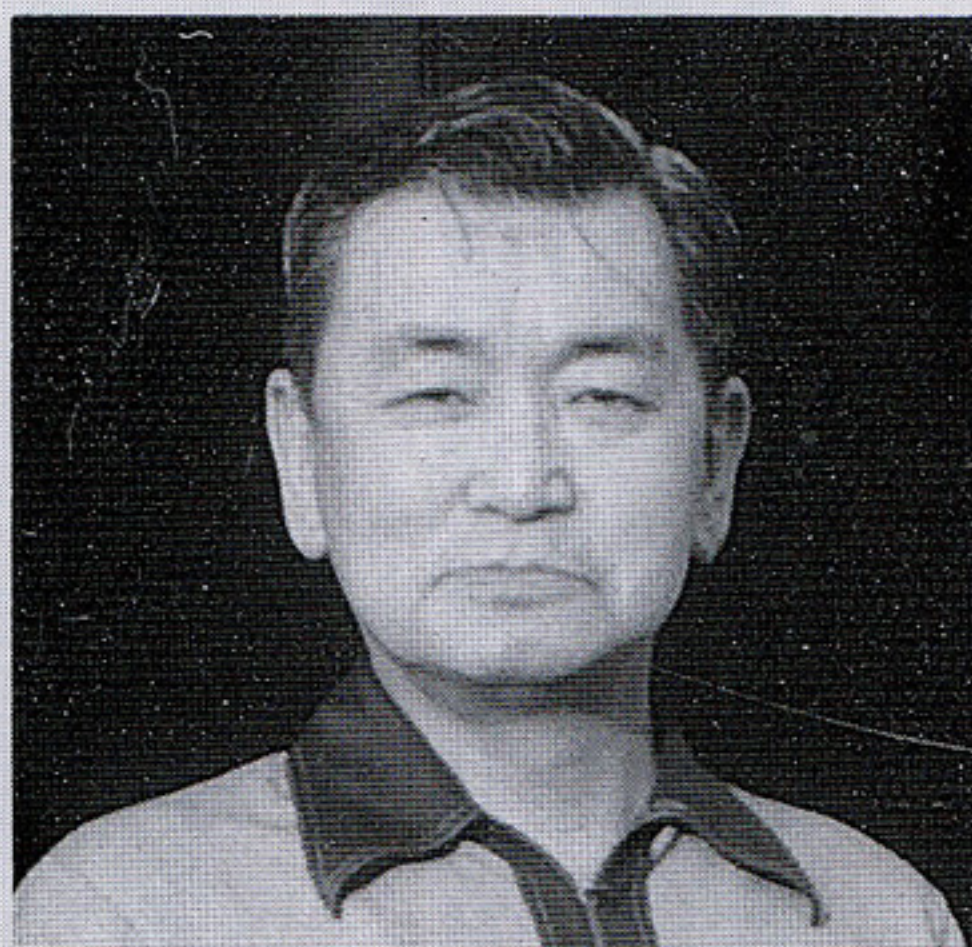


# 弔 辞



元気仙医師会理事滝田満先生の御霊前に気仙医師会を代表してお別れの言葉を申し上げます。

先生が御体の不調に気付かれ東北大学病院での御療養に移られるため一時診療をお休みになることとなりましたが御子息有先生が同大学病院内科で指導的お立場に居られ直接主治医としても御加療を担当なさるとのお話を承り必ずもう一度医院に復帰なさるだろうことを期待し一日も早い御快癒をお祈りしておりました。

大船渡医師団では御見舞に参上しました同窓の船渡先生から先生の御病状を拝聴したのも束の間突然の訃報に接し電話でお知らせした日は船渡先生も絶句され俄には信じ難い御様子でした。この悲しみは私共会員一同の心境でした。

膠原病の特性から長期の治療が必要であり年余に亘る御加療に主治医の役を果された有先生の孝養のお姿に胸を打たれますと共に御家族の皆様のお心の中を拝察します時お慰めの言葉もございません。

先生は大正14年8月30日末崎町の名家滝田家に第三代気仙医師会長滝田巖先生の御長男としてお生まれになりました。父君は医界はもとより大船渡市の名教育委員長として偉大

な業績を遺され御子息の教育にも意を注がれ満先生は小学校時代から抜群の成績で注目を浴び名門盛岡中学を経て東北帝国大学臨時付属医学専門部卒業の年に東北大学心理学科に入学されるという学究肌の御性格で幅広い研鑽を積み履歴書には趣味囲碁と大書されており外国語は英・仏・露の三か国にも通じておられたというのは友人間の語り草となり只只敬服のほかはありませんでした。

昭和25年医師となられてからは和田生理学教室、東北大学第二内科入局で学位を授与され、福島県勿来病院長、岩手県立長坂病院長、県立遠野病院副院長として県営医療の第一線と共に行政官としても広汎多岐に亘る活躍をされております。

先生は医道に関する一家言をお持ちで古武士の風格を見せながら我々に説かれた昭和27年からの理事時代が思い浮かびます。実に父子二代に亘り本会に尽くされた御功績に心から感謝を捧げます。

時代の変遷と共に医療の世界にも多くの課題が提示されていますがこの様な時代にこそ先生のようなグローバルな思考と地域に根ざした実践の経験者の御導きが必要なのですがそれも叶わず残念でなりません。

今後は天涯より御遺族の皆様共々医界の後輩達の上にも御加護を賜りますようお願い申し上げます御生前の御指導に対し衷心より感謝を申し上げますと共に謹んで御冥福をお祈り申し上げますお別れの言葉と致します。

平成12年5月5日

社団法人気仙医師会会長

櫻井末男